

# 石川連協たより

J P 労組石川連協退職者の会

発行責任者 尾田 隆  
編集責任者 串田 信行

## 石川連協退職者の会「第6回定期総会」

### 2020年度活動計画(案)

〈2020年8月29日(土) 14時～16時30分 於：金沢勤労者プラザ〉



#### I はじめに

1. 私たちは昨年の第5回定期総会において、連協・支部における親睦活動と会員サポート活動を前進させながら、減少傾向となっている会員数の純増に向け拡大に取り組んでいくことを確認しました。
2. しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、計画していた諸会議やレク活動は中止・延期を余儀なくされました。本年の春に予定していた「第6回交流と学習の集い」も『石川連協たより』（2020年4月1日）において秋開催に延期と周知し、併せて感染防止を会員に呼び掛けてきたところです。
3. 高齢者組織である私たちはコロナ禍の中では、多くの会員を集める活動は控えざるを得ません。今後は、これまでも実施してきた諸会議やレク活動に参加できない方も意識し、情報発行や会員宅訪問などの取り組みを充実させていくことが必要といえます。

4. J P 労組退職者の会発足から7年目を迎えます。連協・支部の活動は着実に定着前進していますが、会員数の減少傾向には歯止めがかかっていません。活動の継続とさらなる発展に向け、会員数の純増を目指し拡大活動に取り組んでいかななくてはなりません。
5. コロナ禍において石川県内でも多くの高齢者が重症化・死亡しています。医療体制や介護施設の脆弱さが浮き彫りになったといえます。私たちは医療・介護の社会保障制度を見つめ直し、現退一体となって安心安全で希望の持てる社会づくりを次世代のためにも取り組んでいかななくてはなりません。

## Ⅱ 1年間を振り返って

### 1. 会員拡大の取り組み

- (1) 現在（2020年7月20日）の会員数は564名です。純増を目指し新規加入目標を「第5回連協総会時の会員数×10%」として取り組んできましたが、新規加入は5名にとどまり、死亡15名、退会者7名で17名の減少となりました。
- (2) 未加入者名簿および協力会員名簿を作成・配布し、訪問・電話での加入呼びかけ活動を要請しましたが、残念ながらコロナ禍により活動が停滞したといえます。
- (3) また、現役組織と連携しての取り組みの弱さも克服すべき課題といえます。連協・支部段階で現退一体となって活動する体制づくりが早急に必要といえます。

### 2. 連協行事の開催

本年4月に南加賀支部が世話支部として、石川連協退職者の会「第6回交流と学習の集い」の開催を企画しましたがコロナウイルスの感染拡大により、秋開催に延期と「石川連協たより」で周知しました。その後もコロナ禍は収まらず、開催に向けた企画検討に取り組めない状況が続いています。

### 3. 情報の発行

北陸退職者の会会報の「石川連協活動だより」に連協および支部における活動について周知・報告するなどの記事を掲載してきました。また、各支部が作成した会報・情報などについて北陸退職者の会会報と合わせ、同封発送を行ってきました。

### 4. 会議の開催

4回の幹事会を計画していましたがコロナ禍により2回の開催にとどまりました。慶弔制度見直しについて議論・意見集約を行う「拡大連協幹事会」も中止といたしました。連協・支部役員には文書を発出し各種取り組みの延期・中止についてとコロナウイルス感染防止を呼び掛けてきました。

### 5. 共済活動の推進

共済商品の加入継続・新規加入の取り組みとして、支部における会議や行事において、共済説明会の開催を要請してきました。コロナ禍により開催は減ったものの開催支部においては共済会計より会議費が支出され、結果として連協・支部における会計負担の軽減がはかられました。

### 6. 退職者連合の活動参加

退職者連合と連携し、高齢者が安心・安全に生活できる社会づくりに向けた活動を推進してきました。石川県退職者連合が取り組む「竹林伐採ボランティア」（加賀市橋立自然公園）には今年も南加賀支部の会員が中心となり参加してきました。例年、当会から多数参加の石

川島退職者連合が主催の「第20回グラウンドゴルフ大会」は中止となりました。「台風19号災害救援緊急カンパ」活動では、石川連協として51,549円を集約し送金しました。

なお、石川県退職者連合へは坂本哲治（副会長）、串田信行（幹事）を派遣しています。

## 7. 政治活動の取り組み

国会に送り込んでいる組織内参議院議員「なんば奨二」「小沢まさひと」の活動報告を機会あるごと周知してきました。また、地方議員を連協・支部の行事に招き、話し合うこと、また各議員の活動レポートを配布することで政治へ関心と参画意識を高めてきました。

## 8. 平和活動の取り組み

核兵器廃絶と世界の恒久平和を目指す「核兵器廃絶1000万署名」に取り組み、石川連協は「189枚・820筆」を集約し日本退職者連合に送付しました。



## Ⅲ 2020年度の具体的な活動

### 1. 会員相互の「親睦と交流」

- (1) コロナウイルスの感染状況を注視しながら、「会員が集まり楽しむ」活動の開催を検討していくこととします。秋に延期と周知した「第6回交流と学習の集い」については、改めて開催を検討することとします。
- (2) 『石川連協たより』の紙面を活用し、会員への活動への参加呼びかけや会員の声を掲載し会員相互の意思疎通の充実をはかっていきます。

### 2. 会員への「世話役活動」

会員を生涯に亘りサポートする「世話役活動」の推進を目指し、現役組織と連携し相談に乗り・助け合う態勢づくりに努めます。そのためにも会員宅訪問活動を定着させ、会員との触れ合い活動や高齢会員の現状把握に取り組んでいくこととします。

### 3. 会員拡大の取り組み

- (1) 会員減少に歯止めかけ純増の実現を目指し、拡大行動に取り組んでいくこととします。加入勧奨には自信と情熱をもった呼びかけが必要です。そのためにも「入会してよかった」と感じてもらえる連協・支部活動づくりに取り組みます。

(2) 定年・勸奨等で退職する組合員へは現役役員が速やかに加入勸奨を行うことが効果的といえます。すでに退職された未加入者の方には、私たち退職者の会で対応した方が有効といえます。すべての会員に協力を願い、会員の友人・知人の中に未加入の方がいないか協力をいただく活動を全体で推進します。

(3) 会員拡大は現退一体で取り組まなくてはならない課題です。今後は連協・支部において相互の活動に参加し合う機会を積極的に設け、現役組織と交流を深め情報交換しながら会員拡大の取り組みを拡げていくこととします。

#### 4. 政治活動の取り組み

(1) J P 労組組織内議員「なんば奨二」「小沢まさひと」が国政の場で活躍できるよう支えていくこととします。また、支援している地方議員には地域社会が向上する活躍を期待し支援していくこととします。

(2) 希望の持てる明るい未来を築くため、J P 労組の政治活動組織「みらい研」への加入を呼びかけていくこととします。

(3) 解散総選挙がささやかれています。石川県退職者連合は石川選挙区において、3区「近藤和也」、1区「荒井敦志」を推薦決定しています。現役と一体となった最大限の支援活動を取り組んでいくこととします。

#### 5. 平和活動の取り組み

安心して暮らせる社会を継続・発展させるため、J P 労組が取り組んでいる平和行動や退職者連合の平和活動には、積極的に参加していくこととします。

#### 6. 退職者連合との連携

コロナ禍において高齢者の不安は増大しています。安心安全な医療・介護の社会保障制度の実現に向け、退職者連合と連携して活動していきます。また、石川県退職者連合が取り組むボランティア活動やレク活動に積極的に参加していきます。

#### 7. 共済商品の加入促進

J P 労組は助け合い制度として、共済商品の加入促進に取り組んでいます。連協・支部においては機会あるごとに共済説明会を開催し、加入継続と新規加入を呼びかけていくこととします。

#### 8. 広報活動の取り組み

『石川連協たより』を活用し連協・支部活動の周知報告を行っていきます。発行は年4回を基本とします。支部における情報の発行についても支援していくこととします。

#### 9. 各種会議の開催

連協幹事会を年4回開催することとします。J P 労組石川連協と協議し必要となった場合は適時開催することとします。石川連協退職者の会「第7回定期総会」は、2021年7月に開催することとします。

#### 10. 組織慶弔制度の見直しと運営

退職者の会中央幹事会からの見直し提案について北陸地方は、①100円値上げには反対し、連協会費1000円の中から100円を新設する組織慶弔安定会計に組み入れる、②米寿お祝い金をお祝い品に変更する、③早々に規程類の改正を行い、2021年4月から実施する——との意見を「第6回全国総会」に表明していくこととしますが、決定された新制度については会員に周知し、適正に運営していくこととします。